風景塾 -scape camp 2023 Record

- 岐阜市軸の要となる交差点をデザインする -

2023 テーマ：岐阜都市軸の要となる交差点をデザインする

■ 風景塾とは

風景塾は、 自然から都市に至る空間のデザインとその思考方法について、 中部を拠点にデザインを志向する学生と若手エンジニア・デザイナーがともに学び、研鑽する場です。 第3回となる今回は、岐阜市の象徴的なメインストリート・金華橋通り （旧平和通り） を対象に、 グループワークの実践を通じて、 空間デザインや改善案の提案手法について学びます。

■ 設計対象と課題設定

岐阜市の中心市街地を含むセンターゾーン （岐阜市が定義） は、 幅員 36m （8 車線） の県道である金華橋通りを軸に設定されています。 金華橋通りは初期の都市計画によって都市軸として設計された駅から北へまっすぐ延びる街路であり、戦後の復興都市計画でも第一の都市計画街路として位置付けられました。 その後自動車交通の増加によって、駅へ集中する交通量を捌くための機能が重視されるようになっていきましたが、 人口が減少傾向になり車需要も整理されているという現在において、 本来この街路が持っていた軸線としての機能が再び重要視されつつあります。

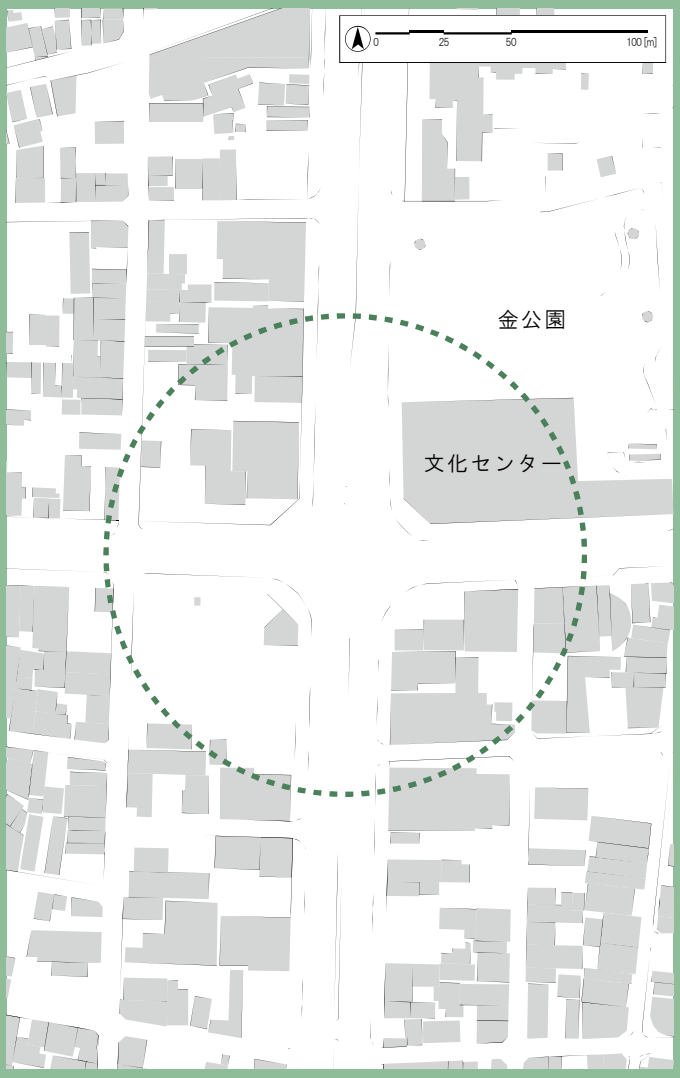
そのような金華橋通りと東西の軸をなす金宝町通りとの交差点 （文化センター前交差点） が今回の風景塾の焦点です。隣接する民地や道路の空間を含めて再編することに取組みました。 この交差点には四つ角に特徴ある土地利用が見られますが、 特に北東の岐阜市文化センターや金公園を含むブロックとの接続に特徴があります。

道路を都心のウォーカブルな環境づくりに資する公共プロパティに転換するためのデザイン （かたちとしくみ） を求めました。 その場所が市民にとって新しく価値ある場所になっていくための提案を目指しました。

対象となる金華橋通りと東西の軸をなす金宝町通りとの交差点（文化センター前交差点）

■ 対象範囲

岐阜市中心市街地、 金華橋通りと金宝町通りの交差点 （文化センター前） 付近



■ 提出物

① 計画範囲の中心市街地における位置づけの模式図 （ダイアグラム）
② 計画範囲及びその周辺における計画概要とコンセプト模式図
③ 計画範囲の具体的な空間構成やデザインの平面図および断面図 （1/100 程度）
④ デザイン案を示す模型 （1/100） ： 150m×150m の範囲 （1/100 で 1,500×1,500 ㎜）
⑤ その他、 スケッチ、 パースなど

DAY 1　9月9日（土）

10:00～　ガイダンス：趣旨・設計条件など

岐阜市文化センターに集合し、岐阜大学の出村先生による趣旨・設計条件に関するガイダンスが行われました。

10:30～　サイトの視察

各班ごとに対象地の視察を行い、現状の把握や課題の特定からアイデアへのイメージを膨らませました。

13:30～　スケッチによるアイデア出し作業

美殿町ラボへ移動し、各班でアイデアを A5サイズの紙に書き出していく形で議論を進めました。

15:30～　エスキス①（コンセプト・ダイアグラム）

1回目のエスキスでは、各班が提案のコンセプトとダイアグラムを講師陣に説明し、アドバイスを受けました。

16:30～　作業

講師陣からのアドバイスを踏まえ、コンセプトとダイアグラムをブラッシュアップしました。

18:30～　中間発表（コンセプト・ダイアグラム）

1 日目の最後に、場所を移して各班が現時点の提案を発表する中間発表が行われ、白熱した議論が交わされました。

DAY 2　9月10日（日）

9:00～　プレゼンテーションレクチャー（大野・伊藤）

名古屋市立大学の大野先生と名古屋造形大学の伊藤先生によるレクチャーが行われました。

10:00～　エスキス②（空間設計）

２回目のエスキスでは、各班が講師陣から空間設計に関するより具体的なアドバイスを受けました。

11:00～　作業

講師陣からの空間設計に関するアドバイスも踏まえ、最終発表に向けて提案をまとめていきました。

14:00～　エスキス③（取りまとめ）

３回目のエスキスでは、各班がここまででまとめた提案を講師陣に説明し、完成に向けたアドバイスを受けました。

15:00～　作業

残る時間で提案の取りまとめと最終発表のための模造紙と模型の製作を行いました。

17:00～　最終発表

最終発表は柳ヶ瀬のロイヤル劇場ビルの「やながせ R テラス」にて行われ、地元の方も交えた熱い議論の後、講師陣による講評を受けました。。

A 班　金華橋通りを公園にするために交差点を「ねじる」プロジェクト

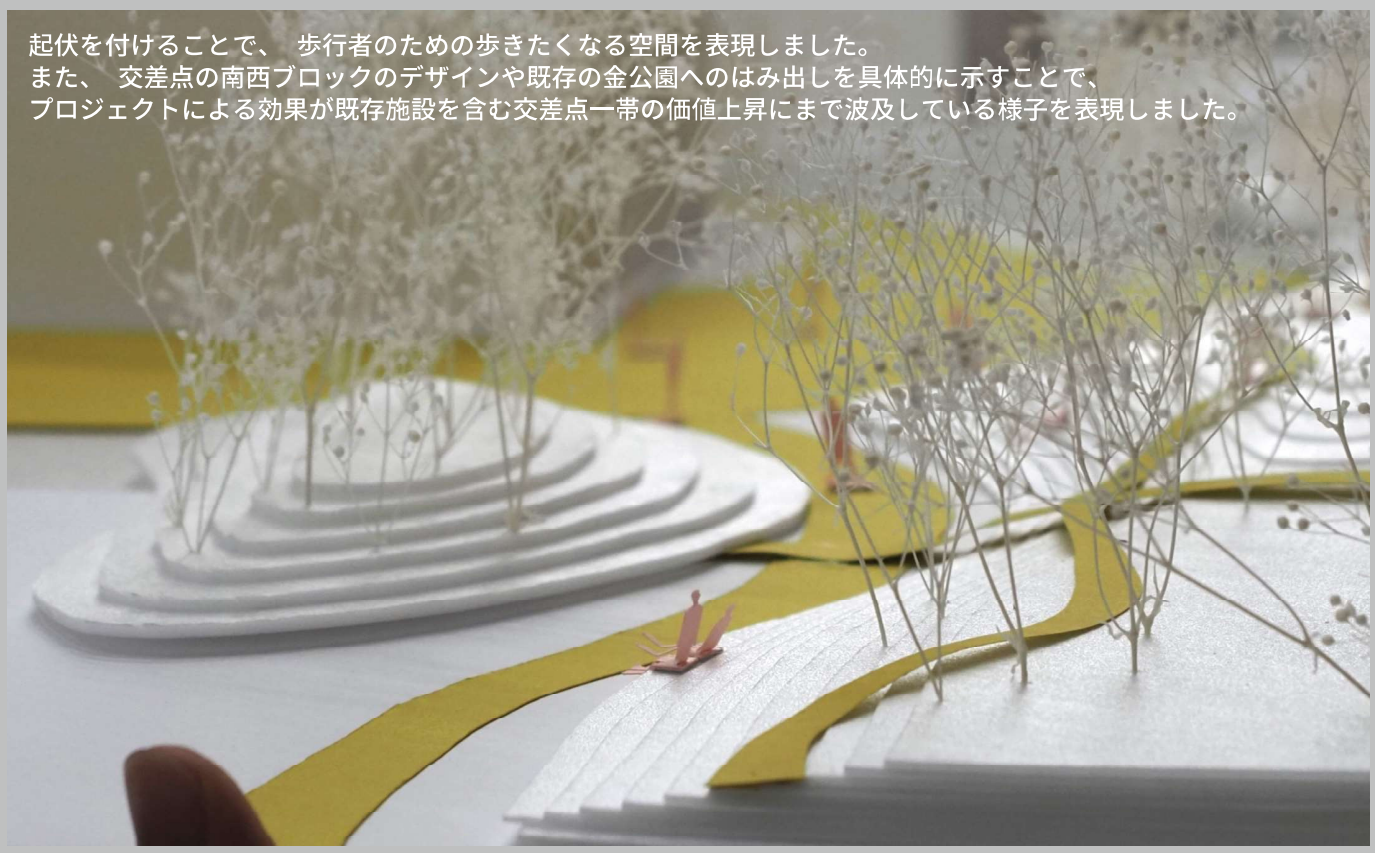
風景賞

小川由衣那　松井利晃　三木つばさ　山田蓮人

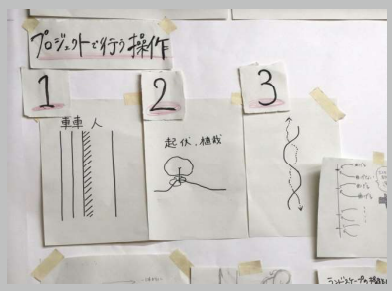
コンセプト

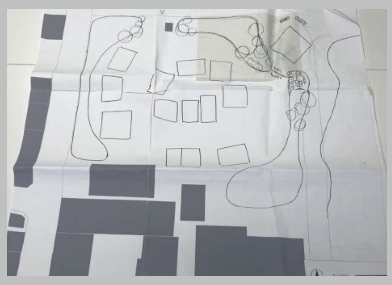
金華橋通りを公園のようなふらっと立ち寄りたくなるみちにするため、３つの操作を行いみち全体の公園化を図りました。また交差点をねじることで、 これまで十字の道路動線だった交差点に斜めの歩行者軸を生み出し、 文化センターや金公園など交差点周辺の既存施設の価値を向上させます。

提案内容



起伏を付けることで、 歩行者のための歩きたくなる空間を表現しました。
また、 交差点の南西ブロックのデザインや既存の金公園へのはみ出しを具体的に示すことで、
プロジェクトによる効果が既存施設を含む交差点一帯の価値上昇にまで波及している様子を表現しました。





本プロジェクトでは、 車道を片側に寄せて道路に歩行者空間を広くとり、境界にバッファ、通りのシンボル、 歩きたくなる空間をつくるための起伏と植栽を施しています。
交差点周辺ではその土地の都合に合わせて車道と歩行者空間をスイッチすることで、 新たな歩行者軸を生み出し、 既存施設の価値上昇と金華橋通り全体の公園化を図ります。

起伏や植栽のほか、 小道を分岐させたり、水みちをつくることで、歩きたくなるような空間に仕立てました。

交差点をねじり横断歩道を斜めに架けることで、 文化センターや金公園を自然と正面から望めてしまうようなサイトをつくりました。
斜めのラインが文化センターの 8 角形屋根と重なっているところもポイント。
交差点の南西ブロックでは戸建ての集落を形成し、 金華橋通り沿いの敷地を一部パブリックスペースとして解放します。
交差点に面する建物は、集落の住民と連携したレストランやカフェ等を想定しており、付近の畑で育てた食材を用いた料理を振る舞うことができます。

質疑応答（最終発表）

Q. 築山をつくることによって、 そこで道路との関係を切っちゃうわけだけど、 一方で道路との関係がいつもないわけじゃない。 タクシー捕まえようとか歩行者と交通との関係はあるのでは。
それから、 十分な空間でもってしっかり歩車を分離するという考え方はいいけれども、 パブリックとプライベートの分け方などはどういう風になっているのか。ピシッと分けたいのか、もう少し操作することを考えているのか、教えてもらえますか？

A. そこはぶらさずに歩車マジ分離という方針にしています。もしその道路にアプローチしたいっていうのがあれば、小道からアプローチをして、 ポイントポイントでデザインしていければクリアできると思います。
そして、 いずれ開発されることを前提にしていて、 タワマンになる代わりに、 プライベートとパブリックの切れ目をここ (交差点) に設定しました。 交差点が、 待ってて楽しい、 信号 1 回飛ばしたい、 となることを期待してデザインしているので、 家に篭って個々で暮らすのではなく、 交差点をみんなと出会う場として内外からアクセスできるようにする、 ということをやる未来もいいんじゃないの？という提案です。

Q. 今回のプランの中で、タワマンなどの開発に対して、これから住民が外出するときにこういうことを守ってほしいとか、 開発の敷地がどうとか、 公共に関してこうしてほしいとか、 メッセージがあればぜひ教えてもらっていいですか？

A. せっかく公園があるから公園と一体の考えだよっていうのが一つと、この金華橋通りの開発が前提だった時に、敷地境界線のような人間が決めた線をまたいで緑をつないでいくのを意識してほしい。

作業風景

現地をみて感じたこと (活かすべき資源やデザイン方針など) は、現地でチーム内で話し合って共有しました。
また、 柳ヶ瀬の喫茶店でお腹を満たしつつデザインについて話し合いをしたことで、 作業開始時には提案の軸となる部分を大まかに決定することが出来ました。

1 日目の終わりには宿題として 1 人 4 枚のイメージパースを作成して翌日持ってくることにしました。
2 日目は各々頑張って描いてきたパースをチームで共有してイメージをより具体化し、 それを基に提案内容の修正と発表準備、伝えたい内容が視覚的に伝わるように質の高い模型作成に尽力しました。

中間発表では、 安全性を損ねてまでそこで交差点をねじる根拠について十分な説明ができませんでした。
その後に講師の方に直接質問に行き、 エスキスでアドバイスを頂き、 チームで話し合いをした結果、十分な安全性と既存施設への動線が確保できるねじり位置を見つけることが出来てより良い提案を行うことが出来ました。

受講生のコメント

学校では建築を設計しているので広範囲で道路などを考えながら案を出すのはとても楽しかったし、新しい街に対しての見方ができたのでよかったです。 さまざまな年代の人と関わりでも充実した時間でした。 これから新たにもっとランドスケープについて考えていきたいと思います。
（名古屋造形大学　小川由衣那）

実務で凝り固まった考えの私にとって、 今回のようなクリエイティブ発想が求められる風景塾はとても良い刺激となりました。 自身の画力や提案力に引き目を感じつつも、 色んな人と提案を作ってく楽しさを改めて実感しました。 実務でも地域にとって本当にいいものをつくるため、使う人、つくる人、設計する人、管理する人などが一緒に集まって議論して行けたらいいのになと思います！
（中央コンサルタンツ株式会社　松井利晃）

贅沢な講師の方々のサポート、 やりたいことの整理と言語化をお手伝いいただいたおかげで、限られた時間で最大限のアウトプットを出すことができたように思います。 設計が楽しいという気持ちを再確認することができました！次はもっと狭い範囲の意匠フォーカスの WS があればぜひ参加したいなと思いました。
（フジワラテッペイアーキテクツラボ　三木つばさ）

ほとんどが形づくられているまちに対する新しい展開と、 変化に対する安全面や生活用途を考慮した場合の壁に対する向き合い方に未熟ながら悩んでいましたが、 風景塾に参加しグループのメンバーとの度重なる議論や講師の方々からのレクチャーを通して、 概念を良い意味で壊すようなアイデアを考案することができ、 様々な場面でのまちづくりに対する向き合い方は一言で言い表すことはできないものの、 可能性や考え方は溢れるほどたくさんあることに気づくことができました。 一つの題に対し多角的な視点からアプローチできるようにこれからも学びや経験を積んでいきたいと思いました。
（岐阜大学　山田蓮人）

B 班　「文化に出会う場所」

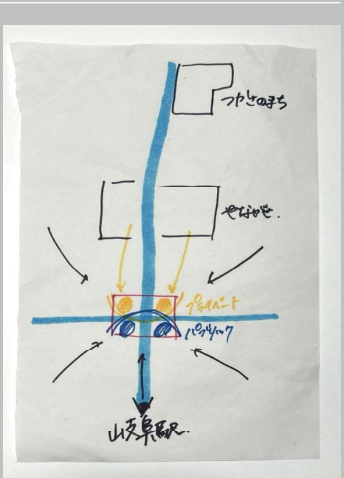
杉山知由莉　鈴木裕也　田中颯太　牧野明日香　松沼花奈

コンセプト

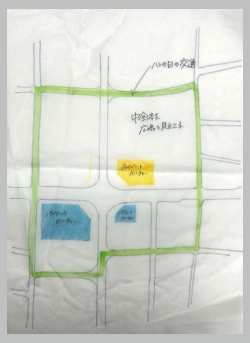
施設内の活動が見え辛い文化センターの機能を交差点全体に展開することで、 文化センターで営まれるパブリックな文化活動と柳ケ瀬で育まれるプライベートな文化活動が融合する結節点を作りました。
平日には移動を主とした交差点としての機能を果たしつつ、 休日やイベント時には車両の進入を制限し交差点全体を広場化することで、 多様な文化活動が起こり、 それらが外からも見えるように構成しました。

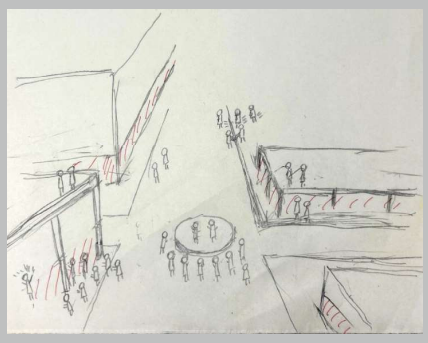
提案内容

車線が減少する金華橋通りは、現状の歩道を均等に拡張し、 通りの両側で特徴の異なる文化活動が展開できるようにしました。
歩道空間には可動式の植栽を配置し、広場空間の用途に応じて自由に配置を変えられるようにしつつ、ハレの日には交差点内部にも植栽を設置できるように工夫しました。



駅側から見たとき、岐阜市のセンタゾーンで最初に訪れる地点であり、 文化センターという公的な文化活動の拠点を有しつつ柳ケ瀬のプライベートな文化活動の滲み出しも期待できると考えました。 中の活動が見えづらい文化センターの機能を交差点全体に分散することで、 駅側から訪れる通行人が文化活動と接しやすくすると共に、交差点の奥に位置する柳ケ瀬への期待感を高める役割を期待します。





パブリックな文化活動とプライベートな文化活動を交差点の四隅に分散し、 外からもその活動が見えるようにすることで、交差点を利用する通行人が文化活動に接する機会が増えるようにしました。
普段は交差点とそこに点在する文化施設として機能するが、 ハレの日には交差点周辺に交通規制をかけることで、 交差点内部への車両の進入を制限し、 歩行者専用の空間として交差点全体を使った大規模なイベントも実施可能になるよう工夫しました。

既存の文化センターと新たに対岸に設置する文化施設とに高低差を持たせ、 既存文化センターが壁のように駅側と柳ケ瀬側を分断している状況を改善できるよう設計しました。
既存文化センターの屋上からは対岸のシアターの活動が見え、 新設するシアターの上階部からは文化センターの活動だけでなく、 その奥に位置する金公園や柳ケ瀬の活動も見えるようになっています。

質疑応答（最終発表）

Q. 普段は車が通るんでしたっけ？その時に、 車が通るところと、 通らないところはどういう風になっているのか教えてください。

A. 模型では表現しきれなかったのですが、 今、 道路の中心に立っている木は移動式の木にしようと思っていて、普段は公園に持って行って、 人々に公園空間が作れればいいなと思っています。 椅子とかファニチャーも同じように普段は公園に置いておいて、休日になったら交差点に出してくる、みたいな形にしようかと思っています。それ以外の街路樹の配置は現状とほとんど変わらないので、 自動車の交通は円滑にできると思います。

Q. 文化センターが金公園の壁面を大きく作っているのが、 金公園のスケール感を作っていると思います。 もし障害がなくなってパッカーンと開いてしまったら、 また全然違うタイプの公園になりますよね。
ただ視線を通すことだけが本当に美しいのか、 それだけ公益なことなのか、 それに対して、 二つの性格の違う広場が、 しかも道路が転じて広場になる瞬間があるのが大発明だと思います。 今あるものを既存しながら、 既存のものを既存しながら作っていくという、そこのところはむしろ主張を弱めちゃうんじゃないかと思うのですが、どうでしょう？

A. 最初、文化センターを南側に動かそうっていうのも大きな思い切った考えだったのですが、その最初の理由として文化センターの上階層にある部分が、 普段は立ち入れることがないというのと、 劇場も開くまでは劇場内で閉じてしまっているっていうのがもったいないというのがありました。 今回、 「文化に出会う場所」 というテーマで新しい面白いことに出会うのは大事なんですけど、 代々ずっと続いてきた活動を知ることも大事だと思うので、 そういった機能を交差点全体に拡張しつつ、 柳ヶ瀬やその奥にある、 グラッスルまでの金神社や柳ヶ瀬を一望できる空間をぜひ作りたいと思い今回の設計にしました。

作業風景

全員の事前課題の内容を共有し、 現地調査の方針を固めてから全員で交差点周辺を見て回りました。

各自の案をイラストにしながら提案のコンセプト作りを進めました。「文化センターの機能を交差点全体に展開」や 「パブリックな文化とプライベートな文化を融合」等のコンセプトが定まってからは、具体的な案をパースや断面図を描きながら検討しました。 最終提案が近づくと、 パースや鳥観図等のイラストを担当する組と模型を作成する組に分かれて作業を行いました。

中間発表では、 「交差点全体を広場化するには多くの懸念点をクリアする必要があるが、 現状の提案では意義が見えてこない」、 「時間軸も加えた四次元的な活用法の検討が必要」といった提案の核となる部分の弱さを指摘され、 それまで曖昧なまま進めていたビジョンや交通システム、 時間軸についても検討に加えました。

受講生のコメント

２日間という短い期間でしたが、 班員それぞれの長所を生かしてアイデアを形にし、 発表できたので良かったです。 他の班の発表や講師の方の講義も勉強になりました。 この経験を実務でも活かしていきたいです。 （株式会社オリエンタルコンサルタンツ　杉山知由莉）

専門分野の異なる学生や社会人の方と、 同じテーマに対して異なる視点から意見を出し合いながら、 タイトなスケジュールで提案を形にする経験は、 研究室での活動では得られない刺激が多く、 とても勉強になりました。 （岐阜大学　鈴木裕也）

たった２日で５人の発想を一つに集約し、 カタチにすることはかなり大変でしたが、 「これならいける！」 とみんなが前を向いた瞬間が最高に気持ちよかったです。 沿道機能の配置やボリュームを再編するところから交差点のあり方を志向するという試みは果たして今後に生きてくるのか？？自分自身楽しみにしています。 （国士舘大学　田中颯太）

文化的活動やまちづくりに対して、 「パブリック」 と 「プライベート」 という視点を持って取り組んだことは、 自分の中でも新たな気づきになりました。 ２日間の中でアイデアを出し合いまとめることはタフではありましたが、 とても刺激になる経験になりました。 自班や他班の健闘課程から、 スケッチのビジュアルで意思疎通を図る重要性を改めて感じました。
（株式会社テイコク　牧野明日香）

違う学部の人や社会人など普段とは違う人と意見を出し合う中で自分では思いつくことができなかったアイディアや視点に気がつくことができました。 また、 短期間の中で自分の考えを分かりやすく伝えること、チームとしてひとつの形にまとめていくことの大切さを学びました。
（名古屋市立大学　松沼花奈）

C 班　「滲み出す四つ角」

金 賞

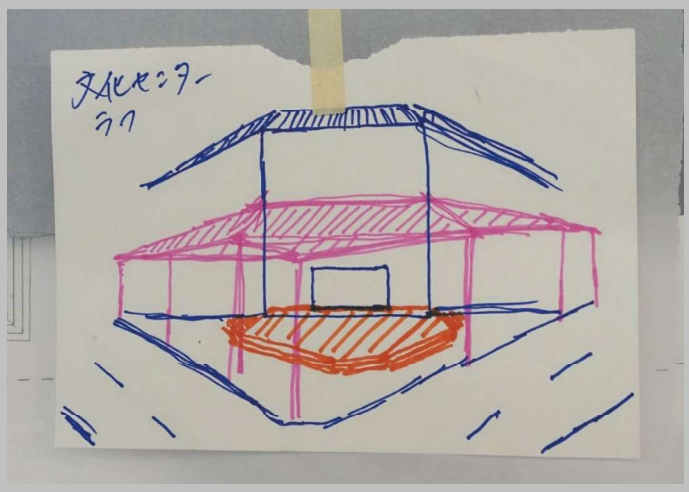
足立香帆　岩永匠　桐山日菜子　窪田和希　松井実音

コンセプト

まちの特色がにじみ出す四つ角です。 隣接する 4 つのまちの設えが交差点のエッジにもたらされ、 そこで起こる人々の活動が風景になります。
東側 4 車線を転換し、 ヒューマンスケールの空間を展開することで、 異なるまちの風景同士を近づけます。

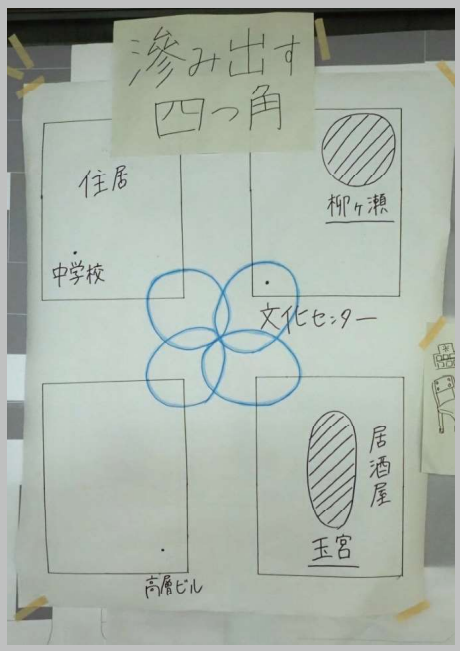
提案内容

拡張した歩行空間に、 商店街の要素である 「短い間口で奥行のある店舗」 を雁行配置して、 店とセットの滞留空間をつくり、 店の中にある飲食する姿や店主との会話といった行動が通りに滲み出す可能性を生みだします。 この場所での人の営みを具体的に表すため、 指定のスケールよりも拡大した、 1/30 模型を製作しました。



「家具を囲んだ井戸端会議、 飲み屋の席での語らい、 文化センター前テラスのイベント待ち、 並ぶ店での店主との会話、 それを通勤する人が、 信号待ちで眺めている。」 という一場面です。 交差点がまち同士の分断線から、 「今日はあっちで何してるだろう」 と関心を持ち合う場に変わります。

文化センターを屹立する 「壁」 から、 人の活動が起こり、 かつ先にあるまちへの移動を生む 「入口」 へ転換する操作をします。 操作は 2 つ、①角を起点に北・東へ差し向けた屋根によるまち・公園方面への視線・行動の誘導、②テラスの設置とセンター入り口の開放による、 通りへのセンター内部の活動の滲み出しです。



交差点の 4 つ角をなすまち各々の特色を抽出し、 拡幅した歩行空間に表出させます。 各まちの人の活動が表出し、 交差点で一つの風景として重なり現れます。

質疑応答（最終発表）

Q. 模型についてもう少し詳しく教えてください。

A. 柳ケ瀬というのはウナギの寝床形式に店が並んでいて、 その中で奥に入っていくのが面白いと思います。
通り抜けることで風景が見えます。 その中で染み出しているのが、 お店の前に看板があったり、 店主が奥に座っているのが見えたりします。

Q. 文化センターは無くすんですか？
文化センター無しで公園の向こうに柳ヶ瀬が見えるというので十分だと思いましたが。

A. 文化センターは無くさず、 前に屋根を付けます。
公園が後ろに隠れていて、 陰になっているので安心感があります。 文化センターを歩いて行って、 その先に店が見えるという見え方は面白いなと思っていて、文化センターがあるからこそ見える景色です。4 つ角の重要なところとして、 イベントをやっているときに人が集まる時に建物を無くしてしまうとそのような風景が起こらなくなるので、 文化センターは残す方向で考えています。

作業風景

作業の間にも道を行ったり来たりし、まちの中に何があるのか見つけて提案の中に盛り込もうとしたり、道路の幅によって見え方はどう変わるのか確かめたりしました。 まちのなかで 1/1 スケールで考えることで、 ここには何があり、 何が起こせるか、 実際に起きると面白いことは何か、考えることができました。

思いついたことは何でも描き出し、各自のアイデアを共有し取り込めるよう心がけましたが、最後の発表に向けて、全体的な方向性の共有が十分できなかったこともあり、他班に比べ十分な完成度に至りませんでした。チームでの設計のやりかたを試行錯誤し、今後の課題を得た 2 日間でした。

道を 「森」 化する案には 「森」 という 「言葉が漠然として提案に繋がらない」、 「新しい」 人との交流という言葉には 「『新しい』 とは何か」 など、 具体に描くことの重要性を感じさせる指摘を何度も頂きました。
最後の提案に向けては 「エッジ」 こそが広場の重要なポイントであるということ、 自分たちの提案の核になるのはヒューマンスケールであることなどのご助言により、まとめに向かっていくことができ、 完成に向けて収斂させるためにも、 要点を見据える力が必要ということがわかりました。

受講生のコメント

今までの設計課題とは異なるタイトなスケジュールでのグループ設計で、 知識や経験不足、自分の考えを絵にして正確に伝えることの難しさを実感しました。 社会人の方や自分とは異なる学部の方の意見を聞き、 とても勉強になりました。 （名古屋市立大学　足立香帆）

その地域のもつ背景 ・ 特色を深く捉えることができるかで、 提案の説得力が大きく変わることや、 アウトプットすることの重要さなど、 風景塾で実際に手を動かして提案することで感じる学びがありました。 （中央コンサルタンツ株式会社　岩永匠）

的確で端的な言葉で表すこと、 画で考えを表すことなど、 思いを形にする力を学びました。まだまだ表現したかったことが沢山あります。 チームで物事を実現させるうえでも、 描き共有する力をつけていきたいです。 （株式会社テイコク　桐山日菜子）

自分の専門とは全く違う分野でしたが、 メンバーの方が優秀で、 とても学びになりました。グループでアイデアをまとめ表現することは難しかったです。終始頼りっぱなしでしたが、楽しく、良い経験ができた 2 日間でした。 （名古屋大学　窪田和希）

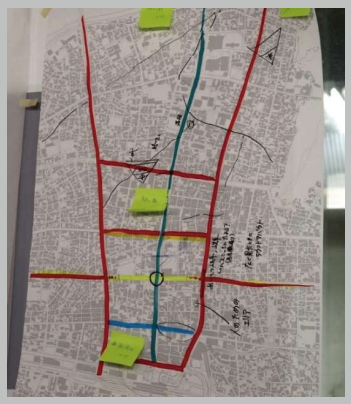
D 班　「4 つのエリアをつなぐ清流 長良川」

小倉達也　神谷宙希　富澤建太　堀江晃生

コンセプト

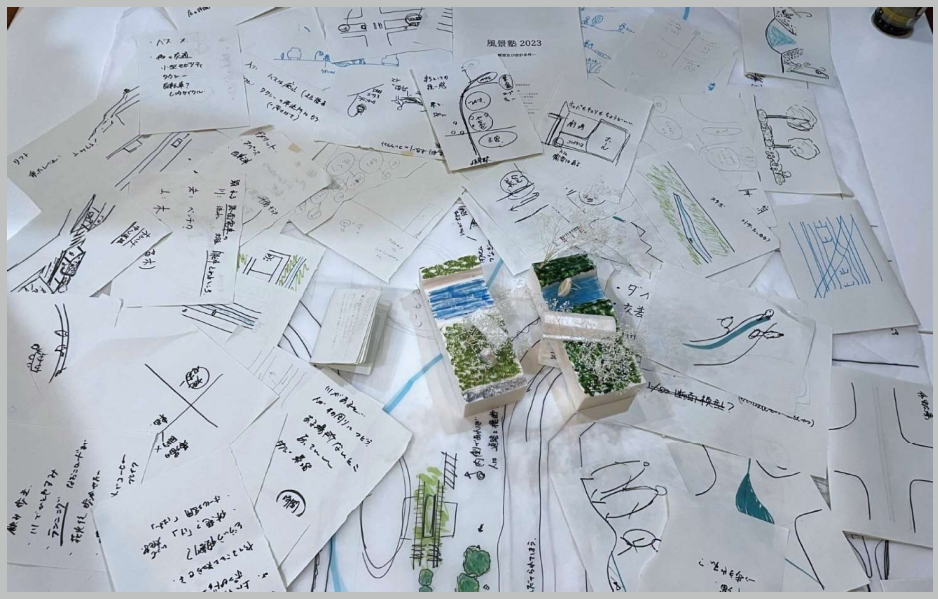
我々のグループでは、マクロの視点から見た金華橋通り、交差点のあり方についてまず考えました。高齢化、人口減少が進む岐阜市、 その真ん中を通る金華橋通り。
駅前 ・ 玉宮エリアと柳ケ瀬エリア ・ つかさのまちエリア ・ 金華山エリアを 「つなぐ」 ために、 D グループでは緑地化した道路内に長良川を模した 「小川」 を流すことでつながりを生み出そうとしました。

提案内容



まずは、 対象となるエリア内にある街路それぞれの特徴を整理しました。 対象となる交差点は車線数を減らすとともに直進することができないようにし、 歩いたり滞在することのできるメイン軸としての特性を付与しました。

設計要件とは異なり、 マクロの視点から交差点を捉えたときに、 当交差点が左折専用 1 車線で可能であると判断したため、 道路空間を狭め、 歩行者空間をより広げる提案を考えました。



この街路に適用するシステムについて、 LRT を通す案などスケッチも重ねつつさまざまな検討がなされました。検討したパターンのバリエーションはトップを誇るのではないかと自負しています。

質疑応答（最終発表）

Q. デザインは陸の自然のデザインを反映したと思うが、 個性的なアクティビティ、 シーズンによってハイライト的なシーンなどは出ましたか？
近くの施設とか、 この場所のこの施設、 この時間帯ならでは、 みたいなのもあると良いなと思います。

A. 岐阜特有のアクティビティで言うと、鮎をつかみ取りしたものを出してある机で食べる、などを考えています。
近くの施設は、 距離がありますが北に行くとメディアコスモスがあるということで、 そちらに誘導するようなデザインにしています。
池についても四季が感じられると思います。 西側にあたる部分に農園のような場所があります。 そこにある理由は、 近くに中学校があり中学生の課外活動で栽培をして四季を感じられたり、 日ごろお手入れをすることで道路に親しみを持ってほしいと考えているからです。

Q. 水の意味や、 周辺との呼応などが決まっていると良いですが、 これはココに！というのはありますか？

A. 水の流れ、 引き込みという意味では、 金公園が芝だけで物足りないと感じたので、 水を楽しめる仕組みを生み出したいと思い金公園から道路上の水につなぎました。 玉宮の飲み屋のエリアにも水辺空間が波及できるのかなと思い、 こちらにも支流を作りました。
私のような岐阜の自然豊かな場所で育った子たちなら、 ここに魚がいたら水路を伝ってどんどん探検できると感じました。 水路を柳ヶ瀬、 玉宮、 などスポットライトが当たる場所に引き込むことによって、 水路を辿ると新たな発見が得られるというコンセプトで水路が通るところを描きました。

作業風景

実は 1 日目の現地視察の他に、 2 日目、 作業が行き詰まったときにも視察へ行きました。 1 車線の大きさの感覚やヒューマンスケールから見た風景がどう見えるのか、 についてはやはり写真や Google Earth ではわからず、 現地視察の大切さを感じました。

班員の中で土木関係のひとが半分を占めていたこともあり、 マクロの視点でこの交差点や金華橋通りを捉えることから始まりました。 自分の思いや考えを伝えるために、 下手ながらもスケッチをし、 イメージを共有していくことができました。

エスキスでは 「使っている風景」 をイメージしてみるといいとアドバイスを受け、 なんとか体験をプレゼンできるよう頑張りました。 しかし、 2 日間という限られた時間の中で 「体験」 をうまくプレゼンできるところまで持っていくことができませんでした。エスキスの中で出た意見の中で、 どれを取り入れ精査していくのか、 に時間を要してしまったことが反省点です。

受講生のコメント

出会ったばかりの人と短時間でデザインをするのは初めてであり、 新たな視点を得られて貴重な経験でした。 スケッチで伝えること、 早い段階からとりあえずアウトプットしてみることの大切さが身に染みて感じられたのが今回の収穫なので、 今後実践していきたいです。
（東京工業大学　小倉達也）

日頃は実現性がある案、国内や近隣で実施事例がある整備状況を展開することを基本としており、全国的な事例の活用や実現がほんとに出来るのか分からない案を提案するなど、 通常ではあまりできない経験をすることができました。今回さまざまな立場の方が集まり意見を交わしましたが、今回出てきた発想の方向性は実務でも生かしていきたいです。
（株式会社オリエンタルコンサルタンツ　神谷宙希）

自分の専門分野以外の方や社会人の方など普段関わる機会が少ない方々と話し合って提案を考えていく中で、 今まで知らなかった知識や自分では思いつかなかった意見などをたくさん聞くことができ、 大変勉強になりました。
（愛知工業大学　富澤建太）

風景塾を通して、自分の考えやイメージを人にアウトプットする大切さを学ぶことができました。しかし、 土木ではあまり学んでこなかったこともあり、 ビジュアルで伝えることの難しさを痛感しました。 まちづくりやコミュニティ・居場所づくりなどに興味があるため、 引き続き今回学んだことを活かし、 自分の考えをわかりやすく説明することを意識していきたいです。
（名古屋大学　堀江晃生）

講師所感

実行委員長
出村 嘉史
岐阜大学

風景塾は今回で 3 回目になります。 ふりかえれば、 毎回、 講師陣はまず課題の設定についてしっかり議論してきました。 よいまちは、勝手に形成されません。 必ず誰かの、あるいは人々の意志によって形が生まれます。 しかも、 それが多層の人々に手掛けられた諸々の空間の混合体として、 われわれの前に顕れます。 われわれはこのスクールを設けたのは、 建築、土木、 ランドスケープなどの複数の関連する専門分野が重なる部分の総合性に立ち向かい、壁を突破してより高い次元で計画 ・ 設計 ・ マネジメントできる人材が育つことを願うためです。 従って、 それに見合う複合的な課題を仕立てないといけません。 しかも受講者にとっては、2 日間という時間内である程度の着地点を見出せるほど、具体的で、取り付く島が「ある」必要があります。

今回の出題した 「交差点」 再設計に収斂された新しいまちの在り方を問う課題は、 誰もがその機能を知っている 「交差点」 という公共施設であるが故に、 「車のため」 から 「人のため」 へと前提がシフトすると、 とたんにアタリマエと思っていたことが、 全部再検討の俎上に上がります。 人が優先される空間で車はどのように振舞うのか。 交通機能の言語で満たされたこの空間が人の過ごす場所になるには、 新しくどんな言語 （機能の結びつき）が必要になるのか。 これは、 しくみの変化しつつある今後の社会を考えるよい題材になったのではないかと自負しております。

果たして受講者のみなさんは、 集中力を切らさずに、 この課題にしっかり向き合い、 激闘しながらも、 それぞれに面白い解を導き出したと思います。 しかも 4 つのグループが全く異なる側面で考察を深めた点は興味深い結果でした。 時間が迫るので、 そのアウトプットの仕方に苦労したと思います。 詳細な空間の姿を設計しきるまでは至らなかった点はこちらの反省点ですが、 それでも新しい時代をつくる大事な再構成のポイントがそれぞれに表現され、臨場感をもって伝わってきました。 2 日間で風景像を示すという難問に挑むこのスクールだからこそ、 そもそも自身の学んできた専門性の重要さを再確認でき、 それが実は他分野とのつながりの中にあることの意義を経験できたのではないでしょうか。

今回は、 課題に関連する諸情報を提示する準備、 周辺のまちの状況を再現する 1/100 模型づくり、 会場設営、 当日の運営などを担当してこのスクールを支える 「学生スタッフ」 が構成され、 活躍してくれました。 このスタッフグループは風景塾開催前後の長期に亘って多くを学びながら創造的に関わり、 事後にはこのアーカイブを編集するなど、 重要な役割を果たしています。 今後は風景塾の卒業生たちを中心にこのコミュニティを醸成しながら、経験を次へつなげて、 こうした役割を担うようになるといいなと思っています。 他分野の間に豊かな人のネットワークが構築されていくことを期待しています。

このスクールでの葛藤と達成感、 そして多様な出自のグループメンバーとのつながりを、 是非今後とも大事にして欲しいと思います。

環境、 資源、 エネルギー、 教育、 医療、 福祉、、、 至るところで持続可能性が叫ばれていますが、 目の前に山積する社会課題はますます複雑に絡み合うばかりです。 風景塾は、まちの具体的な対象地に対して、 この多様で複雑な社会をより良いものにしていくために、共に思考し、共に創造しようという大変意欲的な取り組みだと思います。 与えられた課題は、限られた時間で取り組むにはいささかハードルが高く感じたかもしれませんが、 極めて現実的な課題でもあり、皆さんの創造的行為による成果は間違いなく 「ローカル・スタンダード・デザイン」 の第一歩と呼べるものです。 この一歩が各自の次の一歩へつながることを強く期待しています。 また、 どこかで会いましょう。

ゲスト講師

崎谷 浩一郎

EAU

多様な専門を学んだり仕事としたりの混成チームから、 どのような議論でひとつの提案に収斂していくのか、 今回も建築設計の立場から興味深く向き合いました。 各分野からどのように効果的な手を打てるのか、 ひとつの分野で解決しようとし過ぎていないか、 など、 普段考えないかもしれない思考の機会になればとても良かったです。 「見立て」 の重要性が話題に出ましたが、 振り返ってみて、 設計者の共通言語として 「寸法」 なども当たり前ながら重要だった気がします。 断面図 ・ 平面図で、 局所的な交通にある役割を果たす寸法が、 道に佇む人にとってどのように経験されるか、 あるいはより広い都市計画にとってどのような意味を持つか、 等々。 飛距離の長い着想や 「見立て」 が、 地道に考え続けている 「寸法」 などの次元まで繋がった提案がより力強いものでした。 そんな飛躍と地道さの行き来が、 設計ができることの可能性であり、 楽しさでもあると改めて感じました。

伊藤 維

名古屋造形大学

交通処理に重きが置かれてきた交差点を対象に、 如何に地域のための空間に再編するか、 難しい課題だったと思います。 加えて、 他分野のメンバーとのグループワークも難しく感じたかもしれません。 一方で、 課題が複雑化している今の社会では、 多様な価値観を踏まえて多面的に検証しながら解決提案を組み立てたり、 共感を得るプレゼンが重要で、 まさに風景塾で取り組んだ内容だと思います。 2 日間で出来たこと、 出来なかったことがそれぞれあると思いますが、 今回の経験がきっとどこかで活るはずです。

当日のメモを見返すと 「他分野のメンバーと議論できる専門性や伝える力」、 「構想したイメージを様々なスケールや見方を変えて検証すること」、 「素直に考える」、 「自分たちがワクワクする」 とありました。 私自身もとても勉強になりました。 ありがとうございました。

稲永 哲

大日本ダイヤコンサルタント

大野 暁彦
名古屋市立大学

正直なことをいえば、 交差点というテーマでどこまで提案に幅がでるのかは心配であった。 実際はそんな心配は無用であった。 「交差点を考える」 というのは、 交通計画では道路同士の交点としてどう捌くが論点になりうるのだろうが、その議論の 「地」 である周辺のまちが、 今回のワークショップでは 「図」 として語られ、 道路は 「地」 として議論されていた。 交差点の議論といえば車がどうしても議論の主になりがちだが、 交差点という空間をつくりあげているのは車ではなく、 交差点を縁どるまちである。 それだけに今回のワークショップでの議論のように、 交差点にむきあうまちがどうあるべきかがまず議論されていくことが、 あるべき交差点の議論のように思う。

川口 暢子
愛知工業大学

今年も講師陣共々、 大変勉強になりました。 ありがとうございました。 参加者の皆さんが苦労されることのひとつとして、 「自らのアイデアが盛り込めなかったことへの後悔」 があります。 今回のテーマ 「道路構造の再編」 は、 「通行する」 という交通施設本来の目的を充足したうえで、 「ウォーカブル」 という複合的な解を求めるものでした。 本来なら時間をかけて調査し、 ステークホルダーが共に解を見出しながら設計へと落とし込むプロセスを、 この短期間のスタディではメンバーの発見が調査結果となり、メンバー全員がステークホルダーとなるわけです。そうしたとき、一方的に伝えることよりも、言葉や絵、立体でお互いを知り、 共通項と違いを確かめるための言語をつくるプロセスが重要です。 プログラムが終了した今、 ぜひ、 自分がやりたかったことだけでなく、 メンバーが話していたことを振り返り、 それをご自身の方法で 「再構築」 してみてください。 そしてぜひ、 次年度もご参加頂き風景塾でご一緒できたら嬉しく思います。

近藤 美沙希
大日本ダイヤコンサルタント

参加者の皆さま、 激闘の 2 日間本当にお疲れ様でした。 初対面のメンバーたちとのチームビルディング、 課題の捉え方、 自分たちの提案のアイデンティティ、 最終成果の表現やプレゼンテーションなど…。 短い時間の中で、 沢山の議論と決断をして、 時には悔しい思いをした瞬間もあったのではないかなと思います。 ですが、 最終成果もさることながら、 2 日間の全ての過程で思考と挑戦を止めなかった経験は今後きっとどこかで活きてくると思います。 今回は交差点でしたが、 対象地域や設計課題が変われば、 また違った見立てやアイデアが必要になります。 ぜひ今回の経験を糧にして、 今後も挑戦を続けていってほしいなと思います。

秀島 栄三
名古屋工業大学

受講した皆様、どうもお疲れさまでした。まちをよくしようとすれば、経済、環境、安全、教育，魅力、歴史，公平性、多様性・・・とあらゆる方向に目配りしなければなりません。そのことは頭でわかっていてもいざ実現しようと取り組んでみれば何かを見落としてしまう、葛藤する、順序を間違えてしまう、正解が何かわからなくなってしまう、みんなと意見が合わなくなる。それでもかたちあるまちをつくらなければならない、つくりたい、みんなが納得するものにしたいと思って多くの建築家、都市計画プランナー、建設コンサルタント、役所が頑張ってきました。今回は岐阜の都心に近い交差点一帯を一つの題材としてそのような場面に皆さんで直面し、グループのみんなで統一感ある答えを出したということだと思います。デザインのセンスは大変重要ですが、コミュニケーション（話の進め方、決め方）も重要だったのではないかと思います。いずれにしても他では得がたい経験になったのではないでしょうか。

森田 紘圭
大日本ダイヤコンサルタント

今回の風景塾の課題が「交差点」ということもあり、エスキスやその他で「できますでしょうか？」と多く問われたことが印象的で、正直なところ、いささか困惑してしまいました。エンジニアリングとは「できないことをできるようにする」もので、単にデザインの要件や制約条件、ましてや敵ではないということを改めてお伝えしておきます。できないということを検証するのも技術ですが、それをできるようにするのもまた技術で、それを包括して考えるのがデザインです。
今回の参加者には、これから、あるいは、すでにエンジニアとしてのキャリアを積み重ねていくメンバーもいるように思います。既存の制度、前例、考え方を超えて、新しい価値を生み出すには、狭義のデザインだけでなく、それを実現しうるエンジニアリングの存在が必要不可欠です。これまでの機能主義を超えて、新しい人のための空間を生み出すときに、どのような技術が必要になるのか。交通計画のエンジニアの立場としては、今回の課題をきっかけにそんなところにも思いをはせていただけると嬉しいです。

安田 尚央
EAU GIFU

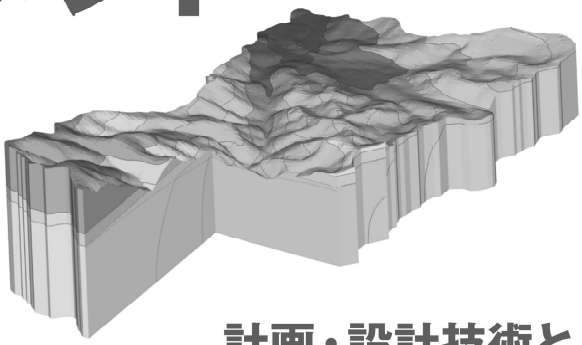
風景塾を受講して、交差点に対する見方はどのように変わったでしょうか。
分野やスケール、立場によってものの見方は大きく異なります。他分野からグループを構成する風景塾では、大いに体験できたと思います。そういった中で議論を前に進めるにはできるだけ多角的に、しかしながら専門的に物事を捉えることが大切です。その点で、交差点は面白い対象だったと思います。
既に複雑化した社会に対し単なる課題の解決でなく、広い視野と新たな見方で社会に投げかける、アーキテクトやエンジニアが求められています。
風景塾での思考や議論が、その一翼を担う活動であればと思います。

協 賛 企 業

大日本ダイヤコンサルタントはじまる。

60年にわたって培ってきた、
地質・地盤に関する技術力で、
愚直なまでに真摯に取り組む。

ダイヤスピリット



計画・設計技術と調査解析・評価技術との融合

安心・安全なまちづくりを目指し
高度な調査と解析技術により
地質・地盤リスクを適切に評価し
インフラ整備の計画・設計に反映します。

防災・減災の社会課題を解決する

激甚化する災害への備え、
社会資本の老朽化対策などの社会課題に対し、
防災・減災技術とまちづくり技術などを融合し、
課題解決を図ります。

コア事業プラスチャレンジ

コア事業を強化しつつ、
新たなチャレンジを促進します。
脱炭素社会の実現に向けた
計画から事業運営、
DXを含む技術開発などを推進し、
サステナブルな社会へ繋げます。

橋といえば大日本

いつの時代も
色褪せぬ
デザイン力。

安全・安心、快適な社会の創造

国土強靱化や脱炭素社会、コンパクト・プラス・
ネットワークの持続可能な都市づくりなど
さまざまな社会ニーズに応え、豊かな暮らしを支えます。

信頼のもと、社会になくてはならない企業グループに

大日本ダイヤコンサルタント株式会社
Dia Nippon Engineering Consultants Co., Ltd.

大日本コンサルタント株式会社と株式会社ダイヤコンサルタントは、2023年7月1日に合併しました。

ESTD 1952

どうしたら まちをもっと よくできるだろう。

大日コンサルタントは、その問いを熱意に変え、
未来へつなぐ持続可能なまちづくりの仕事をしています。

社会資本整備

「社会資本」とは、生活環境や経済活動の基盤、すなわちインフラストラクチャー、インフラを指します。
そして、わたしたち大日コンサルタントはその社会資本整備の一端を担っています。

事業フィールドは、国土

自然豊かな日本、その美しい国土を守りながら、
まちをもっと安全に、まちをもっと快適にしたい。

事業フィールドは、地域社会

地域の特性を活かし、地域が抱える課題に取り組み、
まちにもっと活気を、そこに暮らす人々をもっと笑顔にしたい。

その「もっと」を実現するため、
建設コンサルタントであるわたしたちは、お客様の技術パートナーとして、
社会資本の計画・調査・設計・維持管理など、建設全般にわたる仕事をしています。
更には、これまで培ってきたコンサルティングのノウハウを活かし、
地域おこしや海外への技術支援、脱炭素社会への取り組みへと活動の領域を拡げています。

わたしたちは、創業より70年に渡り、時代の遷り変わりと共に、事業と技術をアップデートしてきました。
まちに新しい価値と文化を創出することが、わたしたちの使命です。

真に豊かな未来をつくるため、
わたしたちはプロフェッショナル集団として、持続可能なまちづくりに挑戦し続けます。
これからも感謝の気持ちを忘れずに、熱意を持って邁進していきます。

わたしたちの探求心が、明るい未来の一歩となる。

まちを、一歩前に。

DAINICHI
大日コンサルタント株式会社

Corporate Site
Instagram

EAU

ENGINEERS
ARCHITECTS
URBAN PLANNERS

GIFU

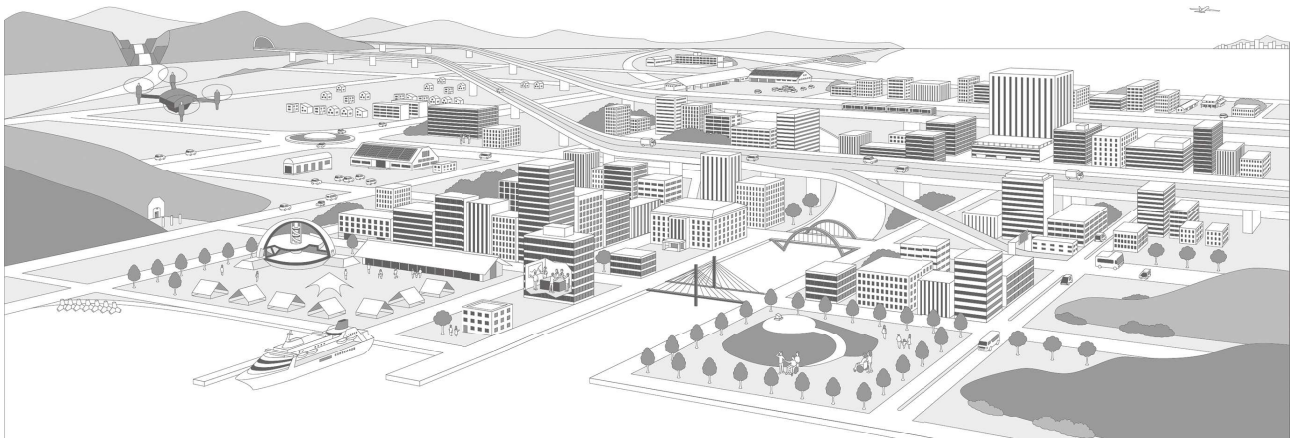
1954 年の創業以来、測量事業を源流に、
様々な建設コンサルティングを手掛けてきたテイコク。
私たちの強みは、確かな調査に自由な発想を掛け合わせた
「根拠をもとにした新たな提案」です。
その提案を確実に実現する技術力、対応力にも多くのお客様から信頼
をいただき、公共事業から民間事業まで、数々の実績を積み重ねてきました。
調べ、考え、解決し、評価する。私たちはこの一連の流れを重視し、
ワンストップで一つひとつの建設事業を手掛けております。

【業務分野】
インフラ・防災分野
プランニング・建築分野
環境分野
調査測量分野
情報分野

ソリューションパートナーズ
株式会社テイコク

世界の人々の豊かなくらしと
夢の創造の実現に貢献する

私たちは、日本トップブランドの技術をもとに、安全・安心・快適・活力があり、
魅力ある持続可能な社会の実現のために新たな社会価値を創造し続ける会社を目指します。



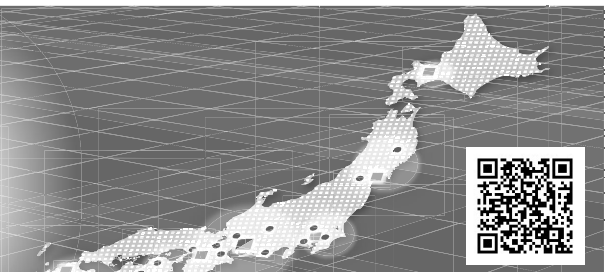
社会価値創造企業へ
『革新』と『変革』と『挑戦』、そしてビジョンの実現

株式会社オリエンタルコンサルタンツ
ORICONSUL

中央コンサルタンツ株式会社

この地に誇る仕事

未来を見つめた豊かな人間環境の創造



本社：名古屋市中区丸の内三丁目22番1号
TEL：052-971-2541
https://www.chuoh-c.co.jp

都市計画に関する業務実績

BUSINESS GUIDE

リニア岐阜県駅周辺におけるエリアデザインの検討及び駅前広等の公共施設の基本設計

【R1～R3 岐阜県中津川市】リニア岐阜県駅周辺エリアデザイン検討業務

来訪者を迎える新たな宿場町

「清流の国ぎふ」を体現する場所

造園に関する業務実績

BUSINESS GUIDE

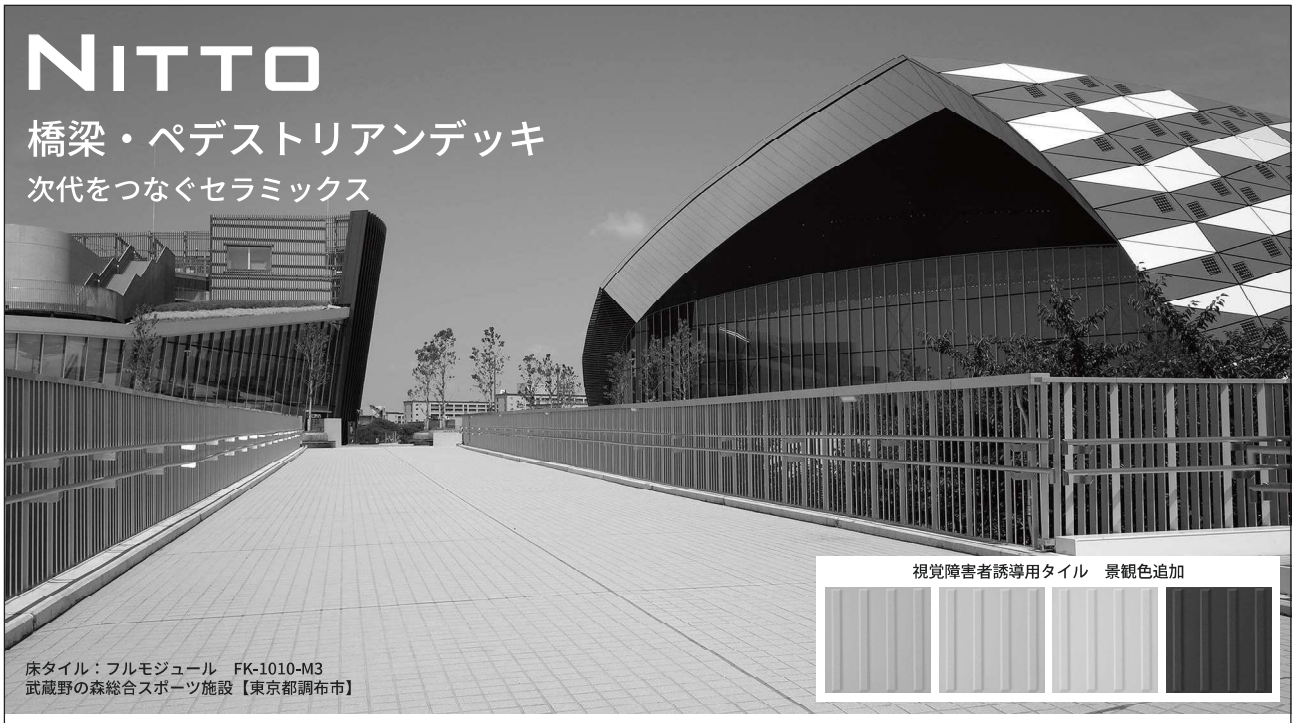
まちに潤いを与える公園の設計・マネジメント

朝宮公園整備設計

愛知県春日井市
春日井市朝宮公園管理事務所

金公園再整備事業実施設計

岐阜県岐阜市



株式会社　ニットー
CERAMIC TILE FOR LANDSCAPE

本社：岐阜県土岐市駄知町1707-2　TEL 0572-50-1550
営業所：東京、仙台、大阪、福岡
https://www.nitto-web.jp

人のための
エリア
金華稲荷通りを
公園にするために
交差点を
ねじる
プロジェクト
四つ角
柳ヶ瀬
文化センター
居酒屋
玉宮
金セン
拠点
ハレの日の交通
中金本を
広場と見立てる
風景塾
-scape camp